Akita University

巻頭言 ―本会のさらなる発展を願って―

秋田大学教授・秋田中国学会会長　石　川　三佐男

秋田中国学会は昭和30年（1955年）、秋田大学の中国学関係教員と秋田県の高等学校の漢文担当教員等によって結成され、幾星霜の活動年月を経て本年平成17年（2005年）５月、結成50周年を迎えました。この間秋田中国学会は毎年定期的に研究発表会や実践体験報告会を開催してきました。公開講演会や記念行事また日本中国学会や東北中国学会と連携した全国規模の学会開催等、これらを含むと、本会の例会や大会の開催回数は優に百数十回を越えています。

このような輝かしい歴史があるなかで一昨年、会員の間から期せずして本会の慶事を記念する企画が湧き起こり、これを承けて本会副会長・吉永慎二郎教授が委員長の任に当たる記念論集編集委員会が組織されました。

一年余に渉る周到な準備期間を経て『秋田中国学会50周年記念論集』は目出度く刊行の運びとなりました。関係者一同、まさに同慶の至りです。

顧みれば本会初代会長、故・田口福司朗教授（中国哲学）、第二代会長、故・境武男教授（中国文学）、第三代会長、故・穴沢辰雄教授（中国哲学）、第四代会長、故・諸戸立雄教授（東洋史学）等の功績を想起せずにはおられません。その詳細な歴史的事跡等については、三代に渉って本会副会長の責を全うされ秋田県の漢文教育界にこの人ありと知られる本会顧問・菅原繁雄先生の筆に委ねることといたします。

一方今後50年の発展を展望すれば、本会会員による漢文教育や中国学研究が一層盛んになることが願われます。教育関係者、また学生や若い人材の活躍も大いに期待したいところです。調査・研究の方面では幸い、秋田の地には他の地域には見られない優れた文化資産（真崎勇助編『秋田文苑』全69冊に収録されている江戸期秋田漢詩文約5000篇等）が伝わっています。かかる文化資産を顕彰し、後世に伝承していくことは秋田中国学会に課せられた責務でありましょう。中国文化と秋田の文化（日本の文化）を比較研究して英知を吸収し、成果を秋田の地に還元し外に向かって情報発信することも、本会の普遍的課題です。

『秋田中国学会50周年記念論集』の刊行を契機として新たな50年の目標に向かって、さらに邁進していきたいものだと願っています。

平成17年５月吉日　識之